

令和2(2020)年度栃木県教育研究発表大会

令和2(2020)年度栃木県教育研究発表大会を、令和3年1月29日(金)・30日(土)の両日、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点からオンラインで開催しました。延べ859人の参加をいただき、盛会のうちに終了しました。

29日の2部では、学力向上、人権教育、児童・生徒指導の各部会が開催されました。学力向上部会では、「確かな学力を身に付けるための取組」をテーマに、県教委義務教育課学力向上推進担当から分析結果の発表と、中学校、高等学校からの実践発表がありました。どの発表からも、全校体制で組織的に行うことが、学力向上には重要であることが伝わってきました。



【学力向上部会での発表の様子】

29日の3部では、外国語教育(小・中・高)、道徳教育の各部会が開催されました。道徳教育部会では、体験活動と道徳性の相関関係と、道徳の授業実践についての発表がありました。前者は、自然体験活動と道徳教育との連携について考えさせられる内容でした。後者においては、児童生徒の実態を踏まえて、道徳的価値について多面的・多角的に考えさせ、自分のとるべき行動を判断させることの重要性を確認することができました。



【道徳教育部会での発表の様子】

30日の1部では、幼小連携、高等学校学習指導、小・中学校学習指導の各部会が開催されました。幼小連携部会では、幼小カリキュラムの接続について鹿沼市のモデル園・モデル校の実践発表と鹿沼市教委の市全体での取組の発表がありました。幼小の相互理解を深め、幼児期に育ててきたものを丁寧につないで、小学校の生活や学びに生かしていくことの重要性について深く考える機会となりました。



【幼小連携部会での発表の様子】

30日の2部では、校内研修、総合的な探究の時間、学校安全の各部会が開催されました。総合的な探究の時間部会では、「総合的な探究の時間の充実に向けて」というテーマで、当センターの調査研究の発表や、佐野高校と馬頭高校からの実践発表、桐陰横浜大学の森朋子副学長による探究活動で育成する新しい時代の学力についての講話がありました。総合的な探究の時間の意義や指導のポイントについて理解を深めることができました。



【総合的な探究の時間部会での発表の様子】

これらの部会以外にも29日の1部では、学校経営、生涯学習、30日の3部では、校内研修(2部からの続き)、情報教育、特別支援教育、はじめてのSDGsの各部会が開催されました。オンラインでの開催だったため、来所での参加者がおらずセンターの会場は少し寂しかったですが、発表者の熱気で満ちていました。参加者のアンケートには、「普段は自分の勤めている地域の情報しか耳に入っていないので、栃木県全体の動向が分かる本大会はとても役立っています。」「発表内容がとても分かりやすく、発表者の思いが伝わってきました。」等の感想が寄せられました。